

# 天竜びとが伝える民俗芸能 天竜川にまつわる民俗芸能にふれよう!

## 天竜びとが伝える「民俗芸能」



天竜川流域には本当にたくさんの祭りや民俗芸能が伝わっているんですよ。

●飯田市美術館 学芸係長 桜井弘人さん(飯田市在住)

天竜川流域、特に飯田市より南の山あいには、有名な遠山の霜月祭り(飯田市上村・南信濃)や新野の雪祭りをはじめ本当にたくさんの民俗芸能が伝わっていて、民俗芸能の宝庫ともいえる地域です。信仰の道・秋葉街道をはじめ古い街道が通る三遠南信の県境地域は、山深いなかにも中世になって開拓された村々が点在します。きびしい自然環境ゆえに土地の神や精霊を祀り、それに街道を往来する宗教者が介在したりしたのです。ですから祭りは村の開拓とその後の歴史が刻み込まれており、祖先がたどった歴史を再確認する場になっているのです。

自然とともに運んで来た人々の、再生への願いを込めた霜月祭りをはじめとする数々の民俗芸能に魅せられ、研究・執筆などに打ち込んでいます。

祭りや天竜川との関わりは、霜月神楽(湯立神楽)に顕著にみられます。坂部の冬祭り(下伊那郡天龍村)では1月4日の朝、祭りを務める村人が天竜川で禊(みそぎ)するとともに、その水を竹筒に汲んで来て湯立てをします。中井侍の神楽(下伊那郡天龍村)でも天竜川から浜水を迎えますし、奥三河の花祭りでも天竜川まで8kmほどの遠路を水迎えに行った集落もありました。つまり聖なる川「天竜川」の水を湯立てに使用することが大切だったのです。遠山の霜月祭り(飯田市上村・南信濃)でも、天竜川の支流遠山川から水を汲み、これを浜水迎えと呼びます。きっと諏訪の湖に通じるという意味でしょう。聖なる水と聖なる火と合わせて聖なる湯を生み出し、その湯気を浴びることで生命の生まれ清まりを願うという信仰なんです。



坂部の冬祭りの「水の王」。聖なる湯を浴びると、一年間無病息災で過ごせるとされます。

この信仰にもとづく神楽は、本来、遠山のように冬至の前夜となる旧暦霜月に行われます。冬至は衰弱した太陽が再生する大切な節目であると考えたからです。そして、この信仰は、人びとの切実な願いにもとづく立願(願をかけること)と願果たしと、強く結びついていました。命が危ないときなどに神々に誓いをたて、願いが成就したならば、たとえ一生涯かけてでも誓いを果たすという習俗です。これを理解しないと、霜月祭りは単なる娯楽芸能になってしまう。

天竜川流域の民俗芸能は、すでに消滅したものもあります。祭りに込められた意味合いも段々忘れ去られようとしています。伝統ある民俗芸能を後世に正しく伝えるためにきちんと記録をし、その意味を明らかにすることが大切だと思います。



中郷(飯田市上村)の湯木舞より、遠山霜月祭(中郷)の湯立て。神々をお迎えしてから聖なる湯を捧げます。



坂部の冬祭りの浜下り(天竜での禊)。天竜川で身を清め、湯立てに使う水を汲んでいきます。



天竜川流域には、数多くの伝統文化が今なお息づいています。暴れ天竜として川を鎮めるお祭りや、天竜川の水そのものを聖なるものとして祀るなどさまざま。みなさんもお近くで行われるお祭りに参加されてみてはいかがでしょうか。

## 天竜びとが伝える「さんよりこより」



時代は流れど、代々伝わってきたお祭りは絶やさないうにしたいですね。

●さんよりこよりのお祭り当番 矢野隆良さん(伊那市在住)

自らも「さんよりこより」に参加し、その伝承に努めている矢野さん。地区の新しい居住者にも祭りの重要性を伝えるのがなかなか難しいとか。

ここ伊那市美篈の辺りは昔から水害が多く困っていた地域だったんです。昔、高遠町の片倉の天伯様が洪水で流され、桜井村に流れ着きましたが、その後また流され川手村に着きました。そこで、桜井と川手で天伯社をお祀りし、水害を起こす悪い神様を退治しようということで、「さんよりこより」が始まったのです。「さんよりこより」は、室町時代の応永34年(1427年)から現在まで約600年、これまで一度も途絶えたことがなく続いているお祭りなんです。天伯様とは、田の神・水の神・農耕の神様など諸説ありますが、由来が不明であるなど、今だに謎の多い神様です。

川手の天伯社は、上川手と下川手の境に建っていて、村人はここに集まります。毎年、上川手と下川手が交代で当番になり、祭を取り仕切りますが、祭の参加者は両方の地区から平等に出るようになっています。祭は毎年8月7日。「さんよりこより」は、「さあよれこよれ」が語源で、「さあ子どもたち、寄りなさい」という意味だと言われています。七夕飾りの笹を持った子どもたちが「さんよりこより」と言いながら鬼に仕立てた水害を起こす疫病神を退治する意味で周りを三周まわって鬼を笹で叩く。これを三回繰り返した後皆で御輿(みこし)をかついで三峰川を渡り、桜井天伯社で子どもたちが同じことを行ないます。そして再び三峰川を歩いて渡って神様をお戻りするということです。

現在は区費でまかなう行事となっていますが、昔からこの地区に住んでいる人たちだけでなく、移り住んで来た方たちにも祭への理解をして頂いて、地域に伝わる伝承が途絶えないよう、その継承に尽力しています。



川渡り



「鬼」役を七夕の笹でむしやき叩く子供たち。なんだか楽しそうですね。



天伯社にお祀りされている御神輿。子供たちがこの下をくぐり、無病息災を願うそうです。地域の人たちも大勢集まってきました。

## 知ってナットク なるほど! 天竜川

「はん濫危険水位」って? 大雨が降ったとき(洪水時)に、水位が上昇して、堤防の破堤等により浸水被害を受ける危険があるという水位。ある程度の間隔で、水位観測所(水位を測定する機器、量水板がある所)を設置し、以下のような目安を決めています。

- 「計画高水位(ハイウォーターレベル)」計画上で想定している最高水位。
- 「はん濫危険水位(危険水位)」破堤等により浸水被害を受ける危険がある水位。
- 「はん濫注意水位(警戒水位)」水防団・消防団による堤防巡視を実施する水位。
- 「水防団待機水位(指定水位)」水防団・消防団が人員や器材の準備をする水位。

近年は、短時間豪雨が局所的に発生する場合があります。川の水位が急激に上昇するような場合もあります。日頃から、川の様子を知っておくとともに、大雨が降った場合の対応(情報入手方法、避難道具、避難先など)を確認しておきましょう。

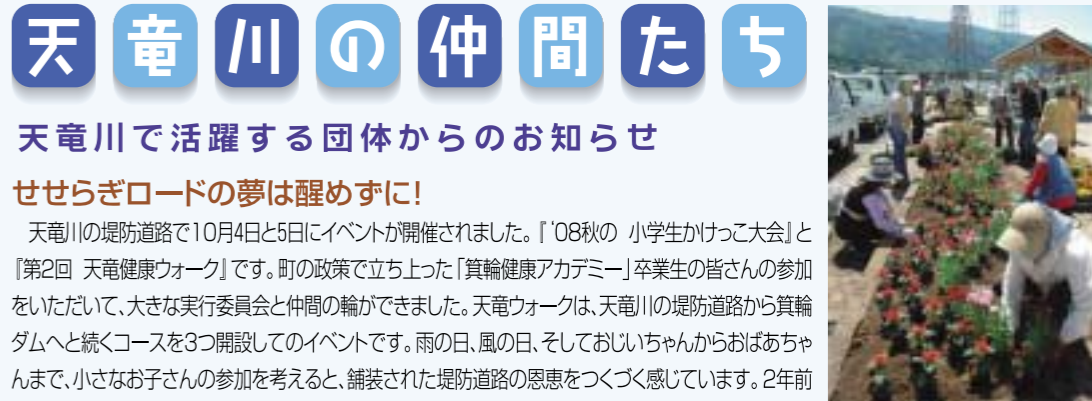
## 天竜川の仲間たち

天竜川で活躍する団体からのお知らせ

せせらぎロードの夢は醒めずに!

天竜川の堤防道路で10月4日と5日にイベントが開催されました。「108秋の小学生かけっこ大会」と「第2回 天竜健康ウォーク」です。町の政策で立ち上げた「真輪健康アカデミー」卒業生の皆さんの参加をいただき、大きな実行委員会と仲間の輪ができました。天竜ウォークは、天竜川の堤防道路から真輪ダムへと続くコースを3つ開設してのイベントです。雨の日、風の日、そしておしいちゃんからおあちゃんまで、小さなお子さんの参加を考えると、舗装された堤防道路の恩恵をつくづく感じています。2年前の7月最初の日曜日、プロジェクトのメンバーを中心に50人で天下の堤防道路を歩いたのが思い出されます。この道路、あの時はまだ土の道の残る砂利道で、まだ舗装されていなかったんです。そしてまさか半月後にあのような豪雨災害が起きるなんて...

濁流が渦巻く天竜河畔を、消波ブロックを積んだ大型トラックが何台も何台も延々と続く光景が印象的でした。今、道路は舗装され、ちょうど堤防が決壊した箇所は、流域の災害対応資材の集積基地と、これもプロジェクトの一貫で整備した災害伝承公園となり、あすまや四阿とベンチ、さくらの樹間には、この春フラワーロードプロジェクトとして女性会員が主体となって設置した花壇に夏の花が咲き競っています。天竜川の水辺の憩いの場づくり(ハード事業)から、イベント(ソフト事業)を通じた仲間づくりへと、「せせらぎロード(天竜河畔)」で見た夢が、「水と緑のヘルスロード(沢川沿いに真輪ダム)」へと町中に広がっています。



北島公園花植栽



かけっこ大会